

東京大学

## 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030

2011年に策定した東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2011～2020（以下、前計画）は、それまで地方演習林ごとに策定してきた試験研究計画の策定方式を改め、附属演習林全体を集約した10か年計画として初めて策定した。前計画が2020年度末で終了したため、2021～2030年の10年間を対象期間として「東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030」を新たに策定した。

本計画は三部構成となっている。第一部（附属演習林計画）は附属演習林全体の計画であり、基本方針、大学教育・研究・社会連携・国際・森林管理・環境安全の計画、及びそれらを実現するための手段としての管理運営計画と組織について記載した。「教育」「研究」「社会連携」の3つのミッションは前計画を踏襲しつつ、新たに「国際」「森林管理」の2つのビジョンを定めている。7つの地方演習林を維持しつつ、弥生キャンパスに新たに「フィールドデータ研究センター（FDRC）」を設置し、これまで置かれていた「教育研究センター」を「教育・社会連携センター」に改称した。FDRCは、公開しているフィールドデータ等を統合的に整理し、国際的に利用可能なデータベースを構築することにより、フィールドデータを用いた研究を集中的に推進し、附属演習林の教育・研究をサポートする役割を担う。

第二部（常置専門委員会計画）は、常置する専門委員会の計画について記載した。常置する専門委員会をミッション、ビジョンに対応させて8委員会から7委員会に再編した。

第三部（地方演習林計画）は各地方演習林の計画であり、第一部で示した「附属演習林が特に重視する機能と、その機能を主に担う地方演習林」を踏まえ、各地方演習林の基本方針、大学教育・研究・社会連携・国際・森林管理・環境安全の計画、及びそれらを実現するための手段としての管理運営計画と組織について記載した。

### 【ミッション】

附属演習林の設置目的の具現化のため、附属演習林の大学教育、研究、社会連携のミッション（存在意義）を以下に定める。大学教育、研究のミッションは前計画から変更しない。社会連携のミッションは前計画のミッションをより明確化するため、「科学と社会をつなぐ森として」を冒頭に挿入する。

1. 大学教育：学部、大学院において、森林に関わる教育を行うとともに、そのために最適なフィールドを提供する。
2. 研究：森林を中心とした自然環境および森林と人の関わりについての専門的な研究を促進するとともに、大学を中心とした研究組織に最適なフィールドおよび森林を中心とした自然環境の動態に関する記録（データ）を提供する。
3. 社会連携：科学と社会をつなぐ森として、学校教育や生涯教育をはじめとする社会教育をより豊かなものにするための仕組みとフィールドを提供する。

## 【ビジョン】

理想とする附属演習林の未来の姿を示すものとして、ビジョンを以下のように定める。

### 1. 国際

「世界をリードする教育研究の森」

アジアの大学演習林の先導的役割を果たしつつ、教育・研究に主眼をおいた国際化を推進する。これまで蓄積してきた長期データを世界的に貴重な財産ととらえ、その価値を研究成果として世界に発信する。

### 2. 森林管理

「たしかな技術で調べられる森」

歴代の職員によって受け継がれてきた、森林管理を支える様々な技術の結晶である森林と、それらの技術を次世代に継承する。

